



東洋大学工学部 機械工学科同窓会会報

第11号
平成24年
5月15日発行

同窓会創立20周年記念 同期会開催報告



【参加者全員で記念写真】



【懇親会】



【懇親会】



【余 興】



【余 興】

機械工学科同窓会創立20周年記念合同大同期会を開催して

実行委員会委員長代行 久住 宏

太田会長の発案で計画された合同大同期会。しかし、太田会長は仕事の関係でロシアに長期に出張することになり、私を委員長代行として具体的な計画の実行は幹事の皆さんに託されました。

20年前同窓会が発足しました。4号館の教室は同窓会に期待する数100人の皆さんの人いきれでむんむんしていたことを覚えています。一同に会するのはそれ以来ということになります。各同期会を横糸に譬えるなら大同期会は各同期会を繋ぐ縦糸。先輩、後輩とのなつかしい交わりや新たな交わりが広がって、会場に大きな絨毯が出来たのではないでしょうか。同窓の皆様が一体感を持ち、今後益々大きな輪に広げていくことを期待したいと思います。

当日は多くの同窓の皆様、また御来賓の皆様、遠路またお忙しい中お越しいただきまして誠にありがとうございました。あつく御礼申し上げます。

最後になりましたが、計画の実行に際し、役割を快くお引き受けくださった幹事の皆様にもあつく御礼申し上げます。ありがとうございました。

記念式典



余 興



機械工学科同窓会創立20周年記念合同大同期会報告

大同期会実行委員会 小山貴士

平成 23 年 11 月 26 日、白山キャンパスのスカイホールにて、機械工学科の合同大同期会が開催されました。工学部の創設 50 周年に機械工学科同窓会の創立 20 周年が重なるため、何か記念行事を計画しようという提案が出されたのが、一昨年の 12 月の幹事会の席でした。

『出席予定人数は 200 人、場所は都内の名所で、9 月に開催』など計画は具体的になり、準備は着々と進められましたが、3 月 11 日の東日本大震災の発生により、各幹事の気持ちが消極的になり、一時は開催の見送りも検討されました。

しかし、震災から 1 か月半が経過した 4 月の幹事会で、工学部創設 50 周年の記念行事が実施されることや同窓会として節目の年を記念したいとの思いから、震災後の様々な問題はあるが、場所や期日を見直して再検討しようとの声が上がり、今回の開催に至りました。

昨今、個人情報の開示制限があり、卒業生皆さんへの連絡が困難ではありました。受付開始時間の少し前から続々と来場され、退職された先生 6 名、現職の先生 8 名、卒業生 91 名に来賓 2 名を合わせた総勢 107 名がお集まりになりました。その中でも、1 期から 8 期の OB の方が半数以上の 64 名と多数出席され、会を盛り上げて下さいました。

開会に先立ち、50 年間の物故者及び東日本大震災の犠牲者（機械工学科の同窓生が 1 名いらっしゃいました）の冥福を祈り、出席者全員で 1 分間の黙祷を捧げました。

第 1 部の式典では、太田会長のご挨拶に続き、現機械工学科主任の西郷先生からご祝辞を頂きました。来賓を代表して、退職された上原先生に工学部創設時代の思い出話を語って頂きました。現在の川越キャンパスからは想像できない当時の様子を、とても楽しそうにご披露して下さいました。その後、同窓生を代表して、現副学長の神田先生と、京北幼稚園の園長に就任された清澤先生により、機械工学科の歴史および同窓会設立からの経緯と現状について、当時の写真をプロジェクターで写しながら説明があり、式典は終了しました。

第 2 部はイベントとして、落語会を企画。工学祭等でお馴染みの、応用化学科出身の真打ち『三遊亭遊喜』師匠をはじめとした 3 名の芸人さんが、おめでたい席に華を添えてくれました。落語と曲芸を和やかな雰囲気の中で 1 時間ほど楽しみました。

第 3 部の祝賀会は立食式のパーティーとし、太田会長のご挨拶、連合育成会の熊井会長のご祝辞の後、平野先生のご発声により乾杯が行われ、賑々しく進行しました。

各々が楽しく歓談する中、卒業生を代表して 2 期の市川さん、21 期の井坂さんに思い出話を披露して頂きました。また、大同期会の開催に当たり色々とご協力頂いた卒業生室の原次長にもご祝辞を頂きました。祝賀会は約 1 時間半を予定していましたが、用意した料理と飲み物は程よく平らげられ、時間は瞬く間に過ぎてしまいました。1 期の田所さんに中締めをお願いした後、出席者全員の集合写真を撮影し、合同大同期会は盛会のうちに開きとなりました。久しぶりに顔を合わせた同窓生の皆さんには、それぞれが次の懇親会の場へと足を向け、会場を後にされました。

出席された同窓生の皆様、ご協力ありがとうございました。今回の経験、反省を活かし、機械工学科同窓会は今後も同窓生との繋がりを第一に活動を続けてまいります。残念ながら大同期会に出席できなかつた方、この会報をお読みになり同窓会活動に関心を持たれた方等、同窓会活動への積極的な参画をお待ちしております。今後共宜しくお願ひ致します。

同窓会実施報告

表題の件、卒業以来 30 年が経過し同士の近況報告、親睦を図るため機械工学科同窓会を実施いたしましたのでご報告いたします。

同窓会は、満足な準備もできず東京近辺の仲間にしか案内することができませんでしたが、福島、千葉、栃木からも参加いただき盛大に実施することができました。

また、2 次会では一部のメンバーが翌朝まで仲間と語り合いました。

尚、開催に際し、清沢先生にも同席をお願いしご多忙にもかかわらず快くご出席いただきました。

＜日 時＞平成 24 年 2 月 18 日（土）19：30～22：30

＜場 所＞居酒屋 あうる 池袋

＜卒業年度とメンバー＞昭和 58 年 3 月卒業メンバー 9 名

＜参加メンバー氏名＞

久保、大西、作井、植木、庄司、白井、土田、中野、飯田 以上



相田 敬雄さん 震災を経験して

昭和 58 年 3 月卒業

故郷への思いについて書かせていただきます。東京電力福島第一原子力発電所の事故により、私たち双葉町住民は全国に避難しています。始めは私は役場に避難していました避難して数時間くらいたった時に職員から川俣の方に各自で避難してください。と指示がありました。自家用車行く人は行って次の避難先までに足交換のない人は役場が手配したバスに乗りこんで避難してくださいと言われました。そこから双葉住民は全国に避難することになりましたそして一年間の避難生活が始まりました。現在も続いています

私は双葉町に家を建てて 5 年間住んでいましたその間は周りの人とも親しくなりました。環境も静かな場所、海に近い場所であったために心の休まる生活を送っていました、休日になれば庭で日にあたり縁側でお茶したり海が近かつたため釣りを楽しんだりしてました、釣りは季節ごとに釣れる魚が違うので楽しかったです。5 年間住んでいてもその土地に愛着はあります先祖代々 100 年間も続いた家の人们はもっと私よりは愛着があると思います。放射線が無ければ帰れる人もいるはずです。でも今は原子力発電所の事故により、家に帰れない状態になっています。国は除せんをして家に戻れるように考えているようですが、除せんの技術はまだ確立されていないとテレビで報道されていました、町の放射線が下がるまでに何十年かかるとも言われています。避難してから一年が過ぎて故郷を思います。避難先での生活は勝手が違うために辛いです。体を休めたり趣味を生かせる生活が出来るように 1 日を大事にしていろいろ考えて暮らしていきたいと思います。終わりに東洋大学卒業の皆さん義援金を送って下さってありがとうございました。前向きに向かっていきます。

神田 善夫さん

勤務先：(株)小森コーポレーション 在職年数：43 年(66 歳で退職)

1. 現在どのような仕事・生活ライフをしていますか？また、これからどのような仕事や生活ライフを望んでいますか？

2 年前に退職、以前より考えていたことを実行しようと努力中

・地域社会との関わり——車での送迎ボランティアで障害者、独居老人をマイカーで、病院、銀行等はドア to ドアで送迎支援。

・趣味を生かして——“江戸文化歴史散策”と名付けた検定合格後、月 1 回の東京散策（2 万歩位）を「戻り船の船頭」の二つ名でボランティアガイドをし、江戸時代の“心”と“意気”を伝えています。

・現役時代に得た技術、知識、経験の伝承——現役時代に関係のあった企業への「物作り」に関するアドバイス

2. 大学時代を振り返っての感想

工学部創設後の二期生として入学、当時は小豆色の東上線にて都内の家より 2 時間以上かけて通学。教授陣は東大系の著名な方々で講義にも熱が入りました。ただし、休講

も多々あり、周りは畠ばかり、次の授業まで何も無し、2 ねんじからは選択科目が多く、時間の空きを無くし、その結果卒業単位は 200 単位を超えたと思います。この間に良き学友とも出会い、常に一緒に行動（4 人は麻雀に必要）現在も会えばすぐに昔に帰ることができます。

3. 同期の皆さんに宛てたメッセージ

70 才の分岐点を迎える “健康第一” はもちろん、深い反省を込めて “かみさん” を大切に！！しかし “老” いは “生い” と新しい自由な発想でチャレンジ！！従社会より脱し、横展開をと私は思っています。又、“親から子へ” 世代から世代へ “へのバトン受け渡しの担当者こともあります。

4. 在校生に先輩としてのコメント

工学部の特色は学んだ事を基本に、実社会で “ツール” として使い、発展、進化させていくかだと思います。単なる知識としてではなく、関連の技術にも目を向け “実現” へ向けた努力をしてください。

p.s : 英語（会話、読解）は絶対必要条件です。

5. 工学部創設 50 周年に当たって、どんな感想をお持ちですか。どんなんことでも結構です。

大学4年間で学んだ事、特に「生産技術」に関して、ギヤー、数値制御、ガンドリル加工、放電加工等のすべてが私が得た仕事の中で実現できた事は自分自身驚きであり、半世紀

前となる教授陣の先見性に感謝しています。又、2期生として清澤教授のご努力をいただき、20名以上の工学部後輩が入社して、原罪も各部門で活躍されています。少しは恩返しができたのではと私は思っています。

古屋 輝夫さん

昭和54年3月卒業 笠原研究室

勤務先:独立行政法人 理化学研究所 在職年数:32年

1. 現在どのような仕事をしていますか？

また、これからどのような仕事や生活をしたいですか？

一昨年の4月から理事をしております。総務、人事、経理、外部資金、安全を担当しています。理研に入所した際には、施設の仕事で技術畠でしたが、最初の4年だけで、あとはいわゆる事務畠になりました。プロジェクトや研究システムの企画立案・予算要求、それに人事、総務を経験し、現在に至っています。科学技術庁（現文部科学省）と海洋科学技術センター（現海洋研究開発機構）への出向など、他の機関の経験をさせていただきました。昨年は、事業仕分けで大変な目にあいました。

2. 大学時代を振り返っての感想

学生時代は、授業には良く出席したほうだと思います。仲間たち数人と最前列に陣取っていました。実験もソフトボールも楽しかった思い出ばかりです。

産学協同実習も面白かった思い出です。当時はユニークなカリキュラムで、今風に言えばインターンシップですね。

東洋大は先進的だったと思います。

3. 同期の皆さんに宛てたメッセージ

年に何度か会う人もいますが、一度、同期会をやりたいです。

4. 在校生に先輩としてのコメント

大学生の就職難の時代とはいうものの、まじめにしっかり勉強した、そしてしっかり遊んだ学生は、必ず採ってくれます。東洋大はブランド力に弱いところがあり、不利なところもありますが、実社会ではでは、まじめにしっかり働く人が勝ち残ります。

5. 工学部創設 50 周年に当たって、どんな感想をお持ちですか。どんなんことでも結構です。

東洋大設立 125 周年に比べると、宣伝力が弱いので皆さんで盛り上げましょう。併せて、東洋大理工学部のブランド力をあげる必要があると思います。現役も OB も力を合わせましょう。

藤井 稔昭さん

昭和54年3月卒業

勤務先:グローリー 株式会社 在職年数:32年

1. 現在どのような仕事・生活ライフをしていますか？また、これからどのような仕事や生活ライフを望んでいますか？

趣味：江戸を歩く会に所属（10年目）

2. 大学時代を振り返っての感想

白山校舎との交流を持ちたかった

3. 同期の皆さんに宛てたメッセージ

健康に関し、日ごろから注意している点・実行している内容を教えてほしい

4. 在校生に先輩としてのコメント

ライフプランの設計を立案しておく事（アウトラインだけでも）

5. 工学部創設 50 周年に当たって、どんな感想をお持ちですか。どんなんことでも結構です。

仕事を中心に生活をしていたので、母校との関わりは意識が薄かったように思います。

今後は、在校生に当社の魅力をアピールしたい。

小山 貴士さん

昭和55年3月卒業 花田研究室

勤務先:株式会社 多賀製作所 在職年数:30年

1. 現在どのような仕事・生活ライフをしていますか？また、これからどのような仕事や生活ライフを望んでいますか？

卒業して30年、金属ばねの製造に携わっています。ここ数年の間に、会社の海外進出（中国・天津での自社工場立ち上げ）や、100年に1度と言われた大不況を経験するなど、入社当時には予想も付かなかった現実に驚いています。また、機械工学科同窓会幹事の一人として活動していく中で、様々な年代のOBの方々と知り合いになることができ、機械工学科に対する思いもより強くなっています。

2. 大学時代を振り返っての感想

機会がある度に川越キャンパスを訪れていますが、環境は大きく変化しています。当時の面影として残っているのは、在学時所属していた軟式野球部の部室と汗を流した練習グラウンドだけになりました。現在のような素晴らしい環境があればもっとしっかり勉強していたのかな？

3. 同期の皆さんに宛てたメッセージ

それぞれが責任あるポストで活躍し、そろそろ昔を懐かしむ年代になってきた頃だと思います。是非一度、同窓会活動へご参画下さい。

4. 在校生に先輩としてのコメント

就職活動がとても厳しい時代ですが、中小企業にもしっかりと目を向けてみてください。

また、卒業しても機械工学科との関わりを持ち続けていて欲しいと思います。

5. 工学部創設 50 周年に当たって、どんな感想をお持ちですか。どんなんことでも結構です。

歴史ある学部で4年間過ごせたことに喜びを感じます。川越キャンパスの名称が工学部から理工学部に変わったことが少し残念です。工学部歌はどうなるのでしょうか？

東日本大震災支援報告

東洋大学 復興問題対策チームの活動

リーダー 藤井敏信（国際地域学部学部長）

このたびは同窓会より義捐金をいただきました。ありがとうございます。被災者の支援に役立てていく所存です。

周知のように、昨年の3月11日に起きた大地震、大津波は、東北、関東の三陸沿岸から千葉県北部まで約600kmにおよぶ広範囲の地域（被災した市町村の総面積は約8500平方キロメートル、人口は250万人を超える）において、家屋の倒壊、地域の破壊・喪失を引き起こし、加えて福島第一原発の損傷破壊による放射能漏れは住民の移動、生活の拘束を余儀なくし、福島県をはじめとして広域に及ぶ放射能汚染被害をもたらしました。この国際社会にも衝撃を与えた未曾有の事態に対し、東洋大学も学術的な団体としてなんらかの支援活動を起こす必要があることから、集まった教員による「東日本大震災復興問題対策チーム」を組織しました。組織は教員の専門性を持続的に活かすことを目的として12のグループに分かれています、現在それぞれに活動を開催していますが、今後は相互のネットワークを構築しつつ支援を行っていく所存です。

復旧から復興へという推移とともに状況は変化し、しかも広範な被害地域はそれぞれに多岐にわたる課題を抱えていること、また復興までには長期の期間を要することを想定しつつ活動を行っています。また政府・地方自治体、関連学会との連携を通して、情報の共有を図っていきます。

具体的な支援内容は、医・職・住・育という幅広い分野にわたります。被災地域の「くらし」や「すまい」をどのように再建していくか、現場では厳しい作業が続けられています。域外や避難所への避難、そして仮設住宅への入居を経て、現在はようやくマスター・プランや地区ごとの計画方針が決定した段階といえます。これらの作業については政府の支援のもとに被災自治体が地域主権を標榜し、地区ごとの住民協議会を組織して参加型の方法が取られたことが特記されます。しかし、今後はより困難な作業が待っています。防潮堤の高さの設定、幹線道路や市街地の嵩上げ、高台移転の設計など住民の利害や権利交換を伴う事業については、合意の形成までに膨大な時間と労力が伴います。また、地域の水産業などの地場産業の再建も從来高齢化や少子化が進んでいた地域ですから、創意と工夫が求められます。被災した地域の方々が自ら意欲をもって仲間を結集し、そこに住む誇りを見出し・確認しつつ地域の再建を図っていく—そうした運動を支援していきたいと考えています。

東日本大震災支援金カンパの御礼とご報告

機械工学科同窓会会長 太田和彦

東日本大震災の発生から1年2か月が経過しました。

被災地には今なお高レベルの放射能等で手を付けられていない箇所もあるようですが、徐々に被災各地で復興の兆しが見えてきたことは喜ばしいことです。

機械工学科同窓会が実施しました東日本大震災支援金のカンパはお蔭様で17万650円の支援金が集まりました。ご協力をいただきました皆様に心から感謝申し上げます。

支援金は2012年2月13日会長、副会長出席のもと、竹村東洋大学学長に手渡しました。

この席には被災支援プロジェクトリーダーの藤井教授も同席されており、同教授から大切に使用させていただきますとの感謝の言葉をいただいております。

また、東洋大学の長島理事長からも感謝状をいただきましたことをご報告します。

復興には長期にわたることは明白であり、今後同窓会としていかに被災者に支援していくか今後の課題と考えております。

以上東日本大震災支援金カンパの御礼とご報告とさせていただきます。

東日本大震災支援金寄付明細報告

| | |
|------------------|----------|
| 振り込みによる寄付 (30名分) | 144,000円 |
| 大合同同期会時の募金 | 16,650円 |
| 現金 (1名分) | 10,000円 |
| 合計 | 170,650円 |

支援金の贈呈式

平成24年2月13日、白山キャンパス学長室に於いて、竹村牧男学長、藤井敏信国際地域学部長（東洋大学東日本大震災復興問題対策チームリーダー）の臨席のもとに支援金贈呈式を行いました。同窓会からは、太田和彦会長、久住、神田両副会長、新村幹事の4名が出席し、太田会長から竹村学長に目録（事前に財務課に収めた支援金）をお渡ししました。

学長から支援金を有効に使うことと、同窓会の支援活動に感謝するとのお礼の言葉がありました。なお、後日下記の感謝状が同窓会宛に送られました。



【支援金の贈呈】



【大学からの感謝状】

理工学部の近況

バイオ・ナノエレクトロニクスセンター 新研究棟着工

バイオ・ナノエレクトロニクスセンターの研究活動が活発になり、従来の施設が手狭になり、また機器の購入、更新などが計画されています。震災を経験し、耐震構造の建物に電子顕微鏡等の精密機器、測定機を設置する必要性から新しい研究棟の建設が法人から認められ、5月から工事が始まりました。建物は 四階建、総面積約3000平米、竣工は25年3月予定です

平成23年度卒業式

平成23年度卒業の卒業式・学位記授与式が、平成23年9月25日に川越キャンパスで、3月卒業の卒業式・学位記授与式が平成24年3月23日に北の丸公園の日本武道館で2年ぶりに大学全体の式として行われました。3月卒は、全学で5997名、工学部793名 機械工学科126名（内女性3名）に卒業証書が授与されました。また、大学院工学研究科は機能システム専攻前期課程28名、後期課程2名が修了しました。

午後3時からは、川越キャンパスに工学部卒業生は集合し、学科別に卒業証書授与式が行われました。機械工学科では、研究室毎に指導の先生から直接卒業証書とJABEE修了証を手渡され、卒業を実感し、社会に出る心構えを新たにした学生が多かったようです。

その後、優秀賞の発表があり、日本機械学会畠山賞が駒宮君に学科主任の西郷教授から授与された後、川越キャンパス育成会の優秀賞が機械工学科同窓会大田会長から塩田君に授与されました。校友会奨励賞は小菅君に安藤交友会会长代行から白山キャンパスで授与されました。

機械工学科卒業生の進路先は、企業84名、大学院進学7名、研究生3名、その他16名、未定5名（平成24年3月現在）となりました。

それぞれ各分野でのご活躍を期待しております。

平成24年度入試状況

平成24年度の機械工学科の入学試験は、平成23年11月から指定校、運動選手などの推薦入試から始まり、平成24年3月の3月入試ですべての入試が終了しました。入試の合格者数は以下の通りでした。

| | | | |
|----------------|-----------|-----------|--------------|
| A1方式 62名 | A2方式 20名 | 3月入試 20名 | B前期3教科 15名 |
| B前期ペスト25名 | B前期4教科 7名 | B中期2科目 7名 | 一般入試合計 135名 |
| 付属・指定校・推薦等 45名 | | | 入試合格者合計 180名 |

なお、4月に入学手続きをして入学した新入生は 理工学部全体で776名、機械工学科180名でした。

機械工学科教員消息

【退職】

石川 圭介 教授

平成23年3月定年により退職されました。

原 秀介 教授

平成24年3月定年により退職されました。

小林 良二 講師

平成23年3月定年により退職されました。

【新教員】

尼子 淳 教授 専門は光制御、サブ波長工学

平成24年度機械工学科教員の主な役割

【全 学】

副学長 神田 雄一 教授

学術研究推進センター長 井内 徹 教授

工業技術研究所 所長 松元 明弘 教授

【理工学部】

教務委員長 和田 昇 教授

【機械工学科】

学科主任 西郷 宗玄 教授

学科幹事 吉野 隆 准教授

教務担当 山田 和明 講師

就職担当 大久保 俊文 教授

入試担当 山川 聰子 准教授

機械工学科同窓会総会のお知らせ

機械工学科同窓会の総会を下記の通り開催いたしますので、皆様お誘いの上ご出席くださいますようお願いいたします。なお、昨年度より川越連合育成会の総会が6月に開催されることとなりましたので、この日に機械工学科同窓会総会も開催します。

また、連合育成会主催で、川越キャンパス開設50年に向けてのシンポジウムを開催いたします。皆様お誘い合わせの上ご出席ください。

記

◇機械工学科同窓会総会

日時：平成24年6月23日（土）

時間：13時00分～14時00分

場所：1205教室（1号館2階）※変更の可能性があります。

議題：1. 平成23年度活動報告及び会計報告

2. 平成24年度活動計画（案）及び予算（案）

3. 役員改選他

（昼食として軽食を用意しております）

【編集後記】

東日本大震災の影響で、同窓会の記念行事も変更を余儀なくされました。それに伴い会報の編集も変更せざるを得ず、原稿をお願いした方々にはご迷惑をおかけし、申し訳ありませんでした。

大同期会には多数の卒業生が参加下さり、大盛況の内に終りました。ただ、若い卒業生の参加が少なかったの残念でした。先輩、後輩の集まるこのような企画にも、是非多数の卒業生の参加をお願いします。（清澤記）

～同窓会連絡先～

〒350-8585 埼玉県川越市鯨井2100
東洋大学川越キャンパス連合育成会 気付

機械工学科同窓会事務局

電話・FAX:049-239-1679 E-mail:ikuseikai@toyo.jp

担当 清澤文彌太 小林康男